

眼科

(スタッフ)

部長 : 池辺 徹
 副部長 : 山田 喜三郎
 嘱託医 : 楠瀬 真美
 視能訓練士 : 加藤 千鶴
 : 浦松 しのぶ

(診療実績)

一般外来は月・水・金の午前中で火・木が手術日です(全麻手術枠は火曜の午前と第1・3・5木曜の午前です)。午後は硝子体注射、レーザー治療、蛍光眼底造影、視野検査などを予約で行っています。最近抗 VEGF 薬の硝子体注射を要する眼底疾患の紹介が多く、午後の診察も予約時間通りにいかないのが現状です。木曜午前は小児眼科(斜視弱視)外来を山田医師が担当していますが、3歳児検診で精査を勧められるなど小児の紹介も増加しています。開業医の先生や他科からの急患の診療依頼にもできるだけ対応しています。

2020年の入院患者数と手術件数をそれぞれ表1、表2に示します。白内障手術では超高齢者の症例が増加しています。最近約4年間での90歳以上の白内障手術は66例102眼でした。なおこのうち95歳以上は9例13眼でした。全身麻酔白内障手術は22例で前年の37例より減少しました。コロナ禍の影響もありそうです。緑内障は点眼治療が主体ですが、手術は主に線維柱帯切除術を行っています。網膜硝子体疾患の難症例は大分大学に依頼しています。

(今後の方向性)

2020年12月楠瀬真美医師が異動し、2021年1月波津久智伸副部長が着任します。また2021年3月末で池辺は退職し、4月から佐藤義樹医師を迎え、山田新部長のもとで新体制となります。

今後も超高齢者および全身麻酔を要する白内障患者や硝子体注射を要する眼底疾患患者の紹介増加が予想され、対応していきます。外来予約枠を見直し、外来待ち時間短縮の一助としたいと考えています。

(文責:池辺徹)

表1 疾患別入院患者数

単位:人

疾患	2019年	2020年
眼瞼・涙器疾患	11	18
結膜疾患	4	1
角膜・強膜疾患	9	13
原田病	7	6
その他のぶどう膜炎	1	3
白内障	343	356
網膜動脈閉塞症	2	2
黄斑円孔・黄斑前膜	2	7
その他の網膜硝子体疾患	12	22
緑内障	24	13
視神経疾患	7	4
斜視	13	5
眼窩疾患	8	6
その他	6	7
計	449	463

表2 入院患者疾患別手術件数

単位:件

疾患	2019年	2020年
眼瞼・涙器疾患	12	13
結膜疾患	3	2
白内障	331	348
網膜硝子体疾患	12	21
緑内障	24	10
斜視	13	5
その他	14	18
計	409	417